



昭和2年7月7日創立

世田谷区立東大原小学校

# 同窓会報

平成23年度 第2号  
(平成24年3月発行)

発行所  
世田谷区大原1-4-6  
東大原小学校同窓会

発行人  
宮川英子

## 同窓会活動の喜び

会長 宮川英子 (十三回生)

お陰様で同窓会活動は軌道にのりはじめ、いろいろの活動ができるようになりました。

会員の皆様が、年会費1,000円を収めてくださるお蔭です。有志の会員の方が、温かいお志でご寄付を下さるおかげです。何といたっても先立つものは資金です。「無い袖は振れない」の諺どおりです。どうぞ今後ともご協力のほどお願いいたします。

同窓会はその運営を定例総会(四月)と評議委員会(年三回)理事会(年七回)各部会(随時)によって行なわれていきます。ほとんどが、土、日、の開催です。

ですからまだお勤めの方でもご参加いただけます。卒業の各回、各クラス会の世話の方々や、有志の方々にこれらに参加していただくことを切に願っています。

今号には、同窓会の推進力の理事会メンバーの写真が掲載しました。当日都合で出られなかった方もいますがみんな母校を愛し、地域に役立ちたいと願っています。

東大原小卒業を誇りにし、同窓のえにしを大切に、時には熱く語り合っ、同窓会活動を楽しんでいます。

母校卒業生は一万二千



名を超えました。

「ようこそ先輩」というテレビ番組がありますが、私達の先輩の中にも、あらゆる部門でりっぱな活躍をしている方が多いことでしょう。

いままでも諸先輩に総会などで講演などをいただきましたが、これからも是非お願いしたいと思います。

たとえ卒業していなくても何年か入学したことにより母校として愛する心をお持ちでしたら、私たちは同窓生として大事な仲間として歓迎いたします。

今年の総会はそのようなことで世界的なジャズピアニストの山下洋輔さんを講師に招くことが出来嬉しく思っています。

また今号は、同窓生の皆様が各期や各学級で開いている同期会、同級会についての特集を企画しました。お楽しみください。

## 平成二十四年度定例総会のお知らせ

左記の要領で平成二十四年度定期総会を開催いたします。同窓会会員には出席のほどお願い致します。またまだ会員になつておられない同窓生もお誘い合わせご来場のうえ会員になっていただきたくお願い致します。

日時：平成二十四年四月十五日(日曜日)

三時から五時

場所：東大原小学校体育館

内容：総会議事、講演会、懇親会

講演会はジャズピアノの世界で活躍なさっている山下洋輔さん(二十七回生)が小学校時代のこと音楽の世界のことなどを語っていただけます。日本経済新聞の私の履歴書で山下洋輔さんが小学校一年の時、東大原小学校に在校されていることを知り、講演をお願いしたところ快く引き受けていただきました。中学一年になったばかりの新入会員と共に楽しみたいと思います。会員の有無に関りなく振ってご参加ください。

## もやし会という名の集い

吉田 越(十二回生)

昭和十四年三月第三荏原尋常小学校を卒業した六年一組のクラス会を「もやし会」という名で集まっている。この「もやし会」の名は級友N君が昭和十七年甲種予科練に入隊することになり、その壮行会が恩師松本哲也先生のご自宅で開催され、多くの級友が激励に集まった。

N君はもやしの製造販売を家業とされる家の子息であった。当日は沢山のもやしをご馳走になった。そんなこともあつてか松本先生から「みんなのクラス会はもやしの豆のようにスクスク伸びろ」と「もやし会」と命名するよりに云われた。このような事から後のち使われることになったのである。

時は移り、私達の多くは戦後の苦しい時代を過ごすこととなった。当時級友の消息を知るすべもなく、まして少年時代を振り返る余裕もなかった。やがて世の中も落ちつきはじめ、「クラス会をやるうよ」の声が聞かれるようになった。世話人のご努力により昭和四十九年一月十九日学

校のご配慮をいただき、新しくなった校舎の教室に二十数名が集まった。三十五年ぶりの懐かしい顔である。N君も元気で出席した。「これからもやし会の名で年に二回合



前列左より吉田越、平田健蔵  
後列左より岩下秀男、深谷謙二、美濃部昭雄

であった。以来、約束を違えず春は同窓会総会に合わせ東京で、秋には温泉に一泊で出かけることが続けられた。また「もやし会」としても同窓会総会、学校周年行事にはいつも積極的に参加するよう努めてきた。一泊旅行は箱根に出かけることが多かった。温泉宿で一晩中碁を打つ組、珍プレーのゴルフを競う組とそれぞれ楽しんだものであった。「お互いに年をとったなー」と励まし合いながら箱根の坂道を登ったことも思い出される。

平成の世も十数年になった頃から級友の悲報が多くなった。年二回の集まりも途絶えるようになってきた。そのような近年であったが、平成二十三年十月十一日久しぶりに「もやし会」で集まった。小人数であったが来年の今日また会いましょうとまだ元気である。(写真を見て下さい。)

「もやし会」の名付け親である松本先生は昭和二十九年に亡くなった。大変残念なことであった。いま、先生は天国でどんな思いで私たちを見ていただいていることでしょうか。どうかこれからもしつかり見守ってください。

私たちは、小学校が創立された年代に生まれた者である。学校とともに成長してきたことになる。今後とも学校そして同窓会の充実発展を切に祈っています。

## 創立八十五周年の母校と共に

宮川英子(十三回生)

私達十三回生は、母校創立の昭和二年に生まれ、今年八十五歳になります。私達が卒業した昭和十六年は母校の最盛

期で、卒業の時は六クラス、三四二名でした。

十三回生には芸能関係の子役が多かったです。

小牧バレエ団のプリマドンナとなった広瀬佐紀子さん、映画演劇に活躍した星三千子(辻野)さん、野上千鶴子さん、また、スケート名手となった福田悦子さんも一時在学していました。

母校罹災とともに、学区に住んでいた同期生の中には、故郷を離れて日本全土に移り住んだ人もいて、同期生はみんなバラバラになりました。

これを結集したのが同期会です。故稲垣昭雄さんを中心として昭和五十五年(1980年)、下北沢小清水亭で卒業四十周年の記念同期会を開催したのでした。当時の担任は藤谷、中田、注連沢、川崎、須田、深江諸先生ですが、この会にはご存命の四人のほか、田使先生、外山先生をお招きして、賑々しく開催されました。

以後、今日まで絶えることなく同期会は開催されています。当初は三年ごと開催でしたが、最近は「毎年会いたい」と、毎年六月に開いています。

喜寿を迎えた年の会では「当時僕は〇〇さんが好きだった」と告白した男性もいて、みんなの大喝采を浴びました。卒業時は口も利い



たこともなかった友でも、八十五歳を過ぎた今ではお互いにいたわり合う大事な仲間となつていきます。

「もう止めようか」という声も出る中で、私たちは、「最後の二人になるまで続けよう」と話しあっています。みんな、自分が最後の二人になると信じて、明るく生きていきます。

## ゆずりは会のこと

大村昭夫(十七回生)

「ゆずりは会」は昭和19年に卒業した269名の同期の会で、卒業50周年を機会に結成し、プールの横に記念樹として、「ゆずりは」の木を植え会の名称としています。それらしい毎年、旅行会や忘年会などかさね、今日にいたっています。しかしみな八十路を超え、会を取りまとめてきた宮澤剛会長も遂に、昨年鬼籍に入り、昨年の総会は奥様と息子さんをお招きしてスカイツリー



の見える両国の第一ホテルで行いました。年末も丸の内の「あづま」で有志によりフグ料理で忘年会を行いました。が年々淋しくなるのは止むをえないとして「ゆずりは」の木が年々育つて大きくなるのをたのしみに仰ぎ見ている今日です。

## 二十六年卒業六年一組クラス会

野地勝彰(二十四回生)

終戦の年、昭和二十年に入学した私達は戦後の焼け残った校舎で勉強をスタートした仲間です。戦争が終わって集団疎開や縁故疎開から戻ってきてようやく一年生のクラスとなり、先生は「胸にHのユニフォーム」を作詞した松本哲也先生から二年生の頃に教師になったばかりの旧姓富澤交子先生に替わり卒業するまでクラス替えも無く、先生も同じでした。富澤先生は私達の卒業と同時に結婚退職されましたので教え子は私達五十四人だけとなり、卒業後も家族のようなクラス会を続けてきました。先生もクラス会には必ず出席され、たった五十四人の教え子の成長ぶりを楽しんでおられました。先生は平成十五年にご逝去されましたが先生を偲んでクラス会は毎年続いています。

会社員、公務員、自営業、弁護士など皆それぞれの道を進みましたがクラス会では昔に戻って和気藹々で楽しみます。始めのうちは会食のクラス会が多かったのですがそのうち年一回の宿泊旅行が定着して毎年十五名前後の級友が参加して行われています。



昨年は十一月四日から一泊で伊東温泉に行きました。参加は例年より少なく十一名でしたが当日は新宿駅集合、小田急のロマンスカーで小田原まで、車内で昼食、ビールと盛り上がり小田原乗換えで伊東まで、市内にある昭和初期の建築様式を誇る「東海館」を見学しました。

その後タクシー分乗で宿泊の「品川荘」へ、品川区が管理する保養施設ですが区民以外にも開放しています。夜はもちろん大宴会、大いに飲み喋った翌日はどうするというのが毎年の話題です。城ヶ崎海岸に行こうとかバスの便が悪いとかの挙句、大室山に行くことになりました。五百八十メートルの山ですが山頂までリフトがあり噴火口を一周する遊歩道も完備、海から近いこともあって皆で眺望を満喫し昼食後小田原に戻って解散です。

参加は 田中一光 名児耶忠 星輝佳 木島芳朗 名須川厚 中森進 野地勝彰 秦(土井)菊枝 福士(日野)京子 長谷川(志賀)紀子 長岡(阿部)悦子 の皆さんでした。この中で 田中、名児耶、秦、福士さんは幹事長の田中さんを始め永久幹事を引き受けてくださっており、毎年場所の選定や予約、会計、会員への連絡、人数の確認など大変ご尽力されています。こうした名幹事がおられるのでクラス会が今まで続いてこられたし、これからも続いていけるものと心から感謝しています。

## はつひ会 二十七年期六年三組の会

飯田 充(二十七回生)

小学校卒業以来毎年のように開いていた「はつひ会」を昨年は開催することが出来ませんでした。最近では平成二十二年十一月二十日飯田橋の「海老専科」で開催し八名の方々が出席されました。殆どの方がリタイアされて、今は釣り、菜園、俳句、麻雀、写真、孫、と趣味を楽しんでおり、俳句は同窓会評議員の足立遼三さんを中心に数人で勉強会を時々開くようになりました。

大学時代は一泊で精進湖へ十数人で行き、女中さん用の大部屋に雑魚寝したこともあり。我々の年代は皆、まじめで何事もおこりませんでした？

そんな我々でしたが男性は社会に出て、職場の中心になって仕事が忙しくなり、また女子は子育てに忙しく「はつひ会」の開催に間があくようになってしまいました。仕事も子育ても目途がついてくると又再開するようになりませんでした。

毎回出席していた安野勝男さんが平成二十二年八月に亡くなられました。たまたまお盆休みで連絡がつかずお別れが出来ませんでした。後日有志で御宅に伺いご焼香をさせていただきます。お嬢様のお話では身体の不調にもかかわらず「はつひ会」には出席くださっていたようです。

俳句の勉強会では兼

題が出され、作成した句を持ち寄り推敲しております。幾つか紹介します。

①が投句。②が推敲句です。

①雨上がり紫陽花さらに色さえる ↓ ②色増すやひと雨ごとの七変化 (M・I作)

①ぼろ市の大官餅に舌づつみ ↓ ②ぼろ市や大官餅に舌づつみ (Y・T)作

①新緑にそびえるビルは都庁かな ↓ ②新

緑を眼下に望む超高層 (K・T)作

私達も年齢が七十台に入りましたが、元氣



に楽しく「はつひ会」を続けていきたいと願っています。

### 古稀の忘年会、賑やかに開かる！

大竹英一(二十七回生)

昨年十二月二十五日、恒例となった六年二組(二十七期)の忘年会は、十六名の同級生が、下北沢の「かつ良」に集まりました。大方が古稀を迎え七十歳となりました。体のどこかには故障があり、「一病息災」ということで皆元気がでした。東大原小を卒業して五七年を数えますが忘年会に初出席という人がいます。羽根木に住む尾村彰彦君です。勤務していたS電器会社の関係でなかなか東京に帰れなかったことが原因でしたが、今は完全退職で、悠々自適のよう。遠方からの参加者に永野勝一君がいます。自宅のある三島から新幹線で出席です。すっかり貫禄がついて、担任の関口皓二先生(八七歳)と二人並ぶとどちらが先生か分からないほどです。現役時代から新幹線通勤で、都心の某婦人雑誌社に通っていました。現役といえ、たつた一人になった岡本匡房君(柏市在住)です。日本

橋で「市場経済研究所」の主筆を務めています。三年前の同窓会記念講演では「経済とは？不況とは？」を若い同窓生を前にやさしく講演しました。女性は六名が出席しました。香中敬子さん(筒井)は昨年九月まで、近くの



多摩ニュータウンの医院で、永年医療事務に勤め、惜しまれながら退職しました。

クリスマス日の午後三時から始まった忘年会は、三つの大鍋を囲み、ワイワイガヤガヤで話が尽きませんでした。二次会は北沢四丁目の多君宅です。南口にある「かつ良」から、下北沢駅を横切つて、変貌する北澤の街を眺めながら二次会場へ向かいました。

《参加者》永野勝一、水口宏道、大竹英一、岡本匡房、石橋靖生、大場偉久雄、多則央、尾村彰彦、香中敬子(筒井)、若王子和子、杉山朝子(塩見)、渡邊翠、稲葉晴子(平賀)、青木治代(麻田)、赤尾英城(三組)、石田次郎(二組)

### 絆とてんでんこ二九回生六年三組の会

山口健司(二十九回生)

北国は連日の猛吹雪の報道。その雪の下で多くの人々が暮らしている。地震と津波、放射能の被害からの補償と収束の展望はなかなか見えてこない。私達二十九回生の親戚や友人のその後のことが頭から離れない。前年一昨年十一月、新宿「三井クラブ五十四階」でクラス会を開いてから早いものでもう一年が過ぎてしまいました。クラスメートから「毎年開いてほしい」と言われながらも、今年だけは、開く気持ちになれませんでした。昨年一年間だけでも、「やんちゃで元気」だった人から「体調が優れない」という年賀状をいただきビックリしたり、伴侶を亡くされた方など、一人ひとりにとって、毎日毎日が本当に大切な日々であることを痛感しています。そんな思いも

あつて昨年十二月十四日に幹事会を開きました。

暖かくなったら、クラス会を開こう。

幹事六人がとりあえず集まった。集まれば話は早い。みんなが集まりやすく、交通の便が良い場所、参加費は五、六千円、クラス会に相応しい雰囲気、料理内容、二次会会場等話し合った結果、今回も「新宿」に決めた。

下見も兼ねての幹事会の会場は、そんな条件をほぼ満たしていた新宿住友ビル四十八階の京懐石店で開くことで一致した。私達六年三組のクラス会には、毎年二十人ぐらい参加します。現役の人、趣味やボランテイアに生きがいをもっている人など「てんでんこ」です。久しぶりに会うクラス会は絆の場所です。



話したりない、去りがたい人にとつては、二次会はとてゝも大切なひと時です。高いビルからの展望は素晴らしく参加者の期待に沿うものにきつ々となつて思ひます。

## 東大原小学校 六年一組 クラス会

幹事長 中山 弘(二十九回生)

還暦を過ぎ、退職すると無性に昔の友に会いたくなるものです。特に小学校時代の友達(仲良しの友・喧嘩の友・初恋の友)。年を取

ると年々一年が短く感じますが、小学校時代の六年間は長くはつきり覚えております。

校門を入ると小さな小山の頂上に、薪を背負つて本を読みながら歩いている像(二宮金次郎)が、どういふ方か説明ないまま六年間見入つてきました。

我々二十九回生(昭和十八・十九年生)は、戦中生まれなのになぜか人数が多く入学当時は、教室が足りなく二年生まで、二部授業(午前・午後)で勉学に励みました。ここで初めての団体生活を体験したので。

わが六年一組のクラス会は、昔は不定期で開催しておりましたが、幹事の方が不幸にも亡くなられたため、四十数年開かれておりませんでした。

還暦の年に、東大原小学校の同窓会に誘われ数名が集まつた時、クラス会開催の話が持ち上がり、それではと何の情報(住所録)もなまま数名で、住所録作成にあたりました。

幸いなことに、住所が移動してない方、実家が昔の所の方が数名いましたのでなんとかクラス会の約半分の方の住所が判明しました。

そこで五年前に、二、三年生時の担任であられた奈良先生を囲み、六年一組のクラス会を開きました。



その時四、五、六年生時の担任の新井先生は、すでにお亡くなりなられており誠に残念でたまりませんでした。クラス会は、なにせ四十年振りの再開ですから、名前と顔が一致せずだんだん時間が経つてくると、昔の面影がよみがえり小学校時代の話に花が咲き、それはそれは三時間はあつという間に過ぎてしまいました。

それ以来、毎年(昨年は震災のため自粛)クラス会を開いております。

我々のクラス会は、幹事の皆さんがいろいろ趣向をこらし、よい提案をしていただくので、私幹事長としては、とても楽をさせていただいております。

一例を挙げると、グルメ・ハイキング などで今年是我々の育つた下北沢で行いました。

下北沢に集まると、すぐに母校の東大原小学校に行き、前述の二宮金次郎像で記念写真を撮ろうとしたところ、金次郎像がありませんでした。情報筋によると盗まれたとのことです。記念写真は昔の面影が全くない校舎を背景に撮り、校庭などを観て参りました。

また下北沢の街を闊歩し、当時にタイムスリップし、良き時代を想い出したところ。私共のクラス会の組織を、紹介致します。

私は一応幹事長とされていますが、その下に数名(六、八名)の幹事があり、幹事会を開いてその年のクラス会の日程・場所などを決めます。

幹事は決められた人でなく、幹事会を行う日の都合の良い方が出席され、言つてみれば年二回クラス会をやっているようなものです。これも六年一組の和があるからこそ、できる

ものと考えております。感謝・謝辞・Thanks

最後に、まだ住所の不明な方がいらつしやいます。なんとかして一人のこらず探し、六年一組全員が一同に集まり、大クラス会を開催したいと願っております。

## やまごぼうの会

大村芙美雄（三十回生）

昭和三十二年三月に六年四組を卒業した私どものクラス会の報告をさせていただきます。

私どもは昭和二十六年入学で、一年から三年までの担任が益川和子先生、四年が大倉先生、五年が矢内先生、六年が小林巳代人先生で、小林先生は会の名付け親でもあります。（いわれはよくわかりませんが）当時は一年から六年まで組替えがありませんでしたので、結束が固いのもかもしれません。途中で転校された方もメンバー入っております。中学、高校時代も何かと集まっております。転居された方、結婚されて姓が変わったなどで連絡先が分からなくなつてしまつたなどで、登録されているのは三十名ほどになつてしまいました。毎年集まって同じことを言い、同じところで笑うのに飽きて、二年か三年おきに集まるようにしております。毎回ご出席を頂いております。益川先生も数年前



に鬼籍に入られ、小林先生も体調が優れないとの事、昨年のクラス会は十一名の寂しい会になつてしまいました。

たまには一泊の遠出でもしたいと話し合っておりますが、なかなか実現しません。

私どもが東大原に通い始めたころは、教室が少なかったのか二部事業を行つていたように記憶しております。当時の写真を見ますと、ひざに穴の開いたズボン等は当たり前で、隔世の感があります。下北沢に住み続けているメンパーは三人くらいになつてしまい、町の様子も様変わりしてしまいました。駅周辺の再開発によりどのような発展をしていくのかが楽しみです。

## クラス会報告

田中清子（旧姓 臼井）（三十一回生）

昭和三十三年卒業の六年三組は男子二十六名女子二十九名。担任は古川一郎先生でした。昭和二十年生れの私達の学年はなぜか入学から卒業までの六年間一度もクラス替えがありませんでした。四、五、六年と三年間受け持つてくださった古川先生を囲んでのクラス会は守屋君のお世話で卒業後何度か開かれまして。

当時子供たちは結婚されたばかりの先生のアパートに遊びに行き、奥様にも可愛がって頂いたこともあつて、先生はクラス会にはいつもお二人で参加して下さいました。

お母さん達もお招きして、親子でのクラス会もありました。その時はピーコックの上にあつた「小清水」のお座敷で、卒業時に古川先生が撮つて下さつた8ミリビデオの上映会をして

六年生の「ぼく」や「〇〇ちゃん」を見つけて、歓声を上げて盛り上がりました。

子育てや仕事忙しい頃は数人が声を掛け合つて秋山君のお店で飲み語る会が続き、しばらくみんなで集まる事が無くなつてしまつたが、今から六年前、だれもが還暦を迎え六十歳になった機会に集まろうと、住所のわかつている三十七名に葉書をだしました。

平成十八年三月二十五日。会場は昔とほとんど変つていない「臼井さんち」で。

当日になつて来れなくなつた秋山君や残念ながら欠席の人もいて、集まつたのは古川先生ご夫妻、「芝ちゃんのおかあさん」と「臼井さんのおかあさん」。そして9人の子供たち（？）石井、石田、子安、芝谷、鈴木、守屋、舞木、丸山（廣瀬）、田中（臼井）でした。

次から次に出てくる昔の話や仕事の話は尽きず、賑やかな楽しい三時間余の間、先生は本当に嬉しそうに一人ひとりの話に聞き入つていらつしやいました。

前の年にご自宅で転んで腰を痛められて少し弱られたなあとは感じましたが、それから半年で先生がお亡くなりになるとはその時誰が思つたでしょうか？

古川一郎先生はその年の九月十二日悪性リンパ腫のためご逝去されました。十月三日のお誕生日を待たずに七十九歳でした。

奥様が「おかげで幸せを感じて逝くことができました。ありがとうございます。お誕生日を待たずに七十九歳でした。」と最後の集まりを心から喜んでおつしやつておられました。

今年先生は七回忌だそうです。又みんなが集まりましょうか。

まだまだ若いぞ！

## 爺さん婆さんのクラス会

漆畑光一（三十四回生）

平成二十三年十一月十九日（土曜日）、久しぶりに私たち昭和三十六年三月卒業（三十四回生）六年三組のクラス会が下北沢一番街の中程（道了尊近く）にある串の助というお店で開かれました。今回は開催日が直前に決まった上に、当日はあいにくの雨、それも豪雨に近い状態でしたが、懐かしい仲間達（男性四名、女性七名）が宮川先生を含めて総勢十二名が集まりました。また、幹事より参加できなかった方からの近況報告（返信はがきのコピー配布）もありました。

我々も卒業してから五十年、皆六十二〜六十三歳と爺さん婆さんの仲間入りをしています。すが、中々どうして元氣一杯、そして良く飲み良く食べ予定時間を大幅に超過して楽しい一時を過ごし次回の再会を誓いお開きとなりました。現在も地元在住のメンバーも多数いますが、今回も桐生市から相田（旧姓宮辺）さん、熱海市から渡辺（旧姓松尾）さんなど遠方から参加してくださいました仲間もおります（毎回の参加ありがとうございます）。

私たちのクラス会は「山紫会」と名付



由来しており卒業時に担任の宮川先生（現同窓会長）のアドバイスによるもので、忘れてしまいがちな卒業年次が判るとともに気の利いたネーミングと気に入っています。

卒業後毎年開催していた私たちクラス会も時の経過とともに休会状態となつてしまいました。平成五年六月に約二十年振りに下北沢栄寿司（クラスの岸田君のお店）で再開されました。きっかけはクラスの井出君と大岡（旧姓細谷）さんがひよんな所でばったりと出会ったことがはじまりで、佐野君が旧住所を頼りにご両親、隣近所の方々を訪ね歩く苦勞をして転居先を調べてくれたことで約三十名近い仲間が集まりました。卒業から三十二年、会場に集まっても顔と名前が一致せず一人一人確認して再会を懐かしがったことが記憶に残っています。

クラス会を開きたいけど住所が解らなくて、と困っている方々も多くいらつしやるでしょうが、我々が行なった住所探しの方法を参考にしてはいかがでしょうか。きっと楽しいクラス会が開催できるものと思います。

## 奥田謹先生へ

水口 緑（五十二回生）

こんにちは！先生、寒い日が続いていますが、体調はいかがですか？昨年十月二十九日に先生と再会してから、もう四カ月が過ぎましたね。先生がKちゃんんとずっと連絡を取って頂いていたお陰で、私たち五十二回生が先生を囲んでの同窓会を開く事が出来ました。三十数年振りの再会にもかかわらず、私達はまるで昨日も会っていたかのように、小学生に戻り夢中で先生とお話してしまいました。先生は当時の

事を本当にこと細かく覚えていて下さいましたね。あの時の出来事はこうだったとか、あの子の家庭はこうだったとか。卒業アルバムを見ながら、とても楽しい時間を過ごす事が出来ました。先生の長い教師生活の中でたった二年間を共に過ごしただけに、こんなにも覚えていて下さった事、私はとても感動しました。当時の先生は、今の私達と同世代だったのですね。先生ご自身の子育てでさぞ大変であったのに、こんな事にまで先生が！という位、全力で私達に関わって下さっていたんだと、初めて気付きました。今頃気付くなんて、ダメな教え子です。でも、今私達はそれぞれの場所で、人生の土台を作って下さった先生の思いを、ちゃんと引き継いでいますよ。叱られてばかりいたO君も、忙しい中あちこちに連絡をしてくれた兄貴分のN君も、どたばたしながらも自分の店で奮闘しているKちゃんと私も。とはいえまだまだ未熟な私達です、この先も悩んだり迷ったりすることが沢山あると思います。そんな時にはお願いです、先生のお元氣な声で、しっかりしなさい！と叱咤して下さい。自分の事を心配してくれる先生がいるという心強さは、何よりも私達の手になつてくれるのですから。先生と過ごす事の出来たこの東大原小学校で、今学んでいる子ども達も、私達のように良い思い出を沢山作って欲しいですね。この文を書いているちょうど今、Kちゃんからそろそろ又会おうよと連絡が来ました。先生が十二年間通われたこの下北沢で、又お会いできる日が近々来ると思っています。その時は又小学生に戻ってしまい騒がしくなると思いますが、どうか許して下さいね。では、お会いできる日を楽しみにしております。

